

循環型社会 環境にやさしい容器包装

容器包装の本来の目的は、商品の品質や衛生安全を保全し、手軽に安全に持ち運ぶことです。セルフサービスで販売しているユニーでは、お客様が自分で商品を選びレジで精算するシステムなので、ほとんどの商品は容器包装に入れて販売しています。ところが、これら容器包装は家庭ごみの50%を占め、廃棄したものを焼却処分する際に大量のCO₂を排出し、地球温暖化の一因にもなっています。ユニーでは容器包装の見直しを行い、3Rの推進とバイオマス活用を推進しています。

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- トレイを使わない販売の検討
- 贈答品などの簡易包装
- マイボトルやマグカップなどの利用促進

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレトペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- 環境配慮PB商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- 生鮮食品の販売に生分解性バイオプラスチック、ポリ乳酸製バックを使用

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

スーパーでレジ袋の配布を開始したのは1970年代、薄くて丈夫、水に強く便利なことから、瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度の使用で廃棄されてしまうこと、また自然界で分解しないので、ゴミ問題や自然破壊につながることから大きな問題になり、消費者団体などで「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、ユニーでは1989年から取り組み始めました。2001年からは「ノーレジ袋キャンペーン」を開始し、さらに啓発を進めましたが効果が出ず、2007年から「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。2012年には有料化を94市町178店舗で実施しています。有料化店舗のレジ袋辞退率は88%となり、全社の辞退率は75%、1年間で2億枚強の削減を果たしています。今後さらに多くの店舗に拡大していきます。

レジ袋削減のための取り組み

■ お買い物袋持参運動開始
1989年に愛知県一宮市で「使用済みのレジ袋を再び使用しよう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

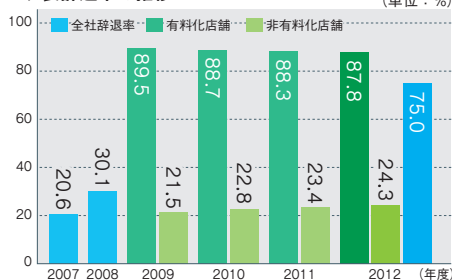
■ マイバッグキャンペーン
2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



■ レジ袋の無料配布中止
名古屋市緑区で、他のスーパーと一緒に有料化を進めました。市民や市の職員も一緒にキャンペーン活動をしました。



レジ袋辞退率の推移



レジ袋使用量の推移

年度	枚数 (単位: 千枚)	重量 (単位: t)	備考
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止

※2008年にユースタと合併し80店舗増える
※容器包装リサイクル法に基づき、財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

容器包装リサイクル法への対応

年度	委託金額
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円